

## 鈴木会頭コラム「世界に誇れる小田原・箱根を」

お声をお寄せください

北條五大祭りは大変な人出でした。小田原、箱根のゴールデンウィークの観光客の出も施設によりバラつきはあるものの、まずまずだったようです。短期的、あるいは表面的な景気は戻ってきているということでしょうか。そこそこに笑顔溢れるまちのにぎわいはやはり心躍る嬉しいものです。

一方、ここに来て我が国の人口問題についての報道をよく見聞きします。子ども(15歳以下)が33年間連続で減り続けているとか、全国1800の市区町村の半分以上が人口減で将来消滅する可能性がある(2040年に子どもを産む世代である20~39歳の女性人口が2010年の5割以下となるので)とか、ショッキングな内容です。

この人口減、少子化、高齢化、就労人口の減という未曾有の社会構造の変化を目近かにすると、戦後の高度成長期のような経済成長を夢見て、同じような手法で量と額を追いかけていくことはどうやら難しくそうです。さあ、元気を出して!では立ち行かない時代になってしまいました。

しかし、それは決して悲観的なことはなく、むしろ新しい時代に新しい価値を創っていく作業としてワクワクすべきことだと思います。今までとはちょっと異なるものさしで測ってみると新しい価値に出会えるかも知れません。ただ、既存の教科書には出ていない課題ですから、他人(ひと)ごとで済まさずに自分ごととして捉え、自ら考え、その解決に自ら行動することが求められると思います。それは、ひとりでは必ずしも楽なことではないでしょう。だからこそ、地域に根差し地域経済の基盤を支える異業種の集まりである商工会議所が担うべき役割はいよいよ大きいと思うのです。

現在、事務局員が会員さんのところへお邪魔をさせていただいております。今年度の活動計画を簡潔にまとめたものを手配りしながら会員満足度調査のアンケートのお願いに上がっております。職員は一人それぞれ200の会員企業様を回ると張り切っておりますので、お忙しいとは思いますが、どうぞ、会ってやってください。そして、アンケートを通じて忌憚のないご意見をおっしゃってください。いただいたご意見の中で即取り組むべきものは即アクションを、時間をかけてじっくりと考えるべきことは来年度の計画づくりに活かしてまいります。年度初めに申し上げたように、「議論して、行動して、結果を問う」ことを目指しております。そのためには会員皆様のお一人おひとりのお声が必要不可欠です。

次月号では、今年度新たに立ち上げました7つの特別委員会についてお話させていただく予定です。

会頭 鈴木悌介